



人とクルマのいい関係をめざして

**11**  
2008 NOVEMBER

●編集室：〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1  
 本田技研工業株式会社  
 安全運転普及本部内  
 電話 03(5412)1736  
 ●編集人：千葉英雄  
 ●年間購読料：1200円(定価1部100円+消費税込)  
 ※郵便振替 口座番号：00170-7-173273  
 ※加入者名：(株)アストクリエティブ  
 安全運転普及本部係

安全運転普及活動ホームページ <http://www.honda.co.jp/safetyinfo/>

**今月の  
スポット**

シミュレーターの利点は、  
**危険な状況を安全に体験  
 できること。事故を起こ  
 しても、痛い思いをする  
 ことはありません。失敗  
 を経験することで、危険  
 予測能力が育成できます。**  
 (特集より)

**CONTENTS**

シリーズ：命を守る教育現場  
 第5回「シミュレーターを活用した自転車教育」……………①  
**自転車のルールとマナーをわかりやすく伝える**  
**教育最前線⑧** ……………②  
 ●(財)日本交通安全教育普及協会・原付通学生徒及び交通指導担当教員研修会/  
 バイク(原付)通学を許可している高校の教員を対象に安全指導のノウハウを提供  
**TOPICS 1** ……………④  
 ●第12回セーフティジャパンインストラクター競技大会/世界10ヵ国  
 118名のインストラクターがトップレベルの指導力、安全運転技術を競う  
**TRAFFIC ADVICE**—交通教育センターから ……………④  
 ●交通安全を考える～人・企業・信頼～/  
 2008トラフィック・セーフティ・フォーラム in 熊本  
 ●交通安全を考える—風土を変えよう指導者の育成/  
 2008トラフィック・セーフティ・フォーラム in 鈴鹿  
**TOPICS 2** ……………④  
 ●安全運転教育用二輪ライディングシミュレーター/ライディングシミュ  
 レーターがさらに進化、よりきめ細かな安全運転教育を可能に  
**NEWS REVIEW** ……………⑤  
 ●(財)交通事故総合分析センター 第11回研究発表会  
 ●飲酒運転根絶シンポジウム  
 ●第40回全国白バイ安全運転競技大会  
**DOCUMENT EYE** ……………⑥  
 ●信号機のある交差点で高齢歩行者の左右確認状況を観察する

**シリーズ：命を守る教育現場 第⑤回「シミュレーターを活用した自転車教育」**

**自転車のルールとマナーを  
わかりやすく伝える**

今年6月の改正道路交通法の施行により、自転車の通行区分が明確化されるなど、自転車利用者  
 者に交通ルールの遵守が求められている。Hondaは自転車利用者へ交通ルールとマナーをわか  
 りやすく伝え、さらに危険予測能力を高めることを目的に体験型教育機器「Honda自転車シミ  
 ュレーター(以下、シミュレーター)」の開発を進めている。開発段階にあるシミュレーター  
 を使って、小学校などで行われた自転車教育の現場を紹介し、シミュレーターを活用した自転  
 車教育の可能性を探る。



埼玉県川島町立丸小学校での交通教育センターレインボー埼玉によるシミュレーターを活用  
 した交通安全授業

野口さんは児童の運転行動を見ながらア  
 ドバイスしていく。「みなさんのように、  
 小学生が運転する自転車は歩道を走るこ  
 とができますが、歩道は歩行者優先です。先  
 ほど、歩行者とぶつかってしまった子が  
 いましたが、シミュレーターではなく、実  
 際に起きたらどうなるでしょう?みなさん

児童に、野口さんがシミュレーターの操  
 作を説明。「発進する時は右後方を確認しま  
 しょう。右後方のポールの上についてい  
 るランプの色と同じボタンを押します。押さ  
 なければ、シミュレーターから「後ろを確  
 認しよう」と警告がでます。「止まれる標  
 識がある場所では、必ず止まってください。  
 止まったら必ず後ろを確認して、左右にあ  
 る画面のぞき込んで、安全を確認しまし  
 ょう。」「横断歩道や踏切では、どうやって  
 渡りますか?」「自転車を降りて、押して  
 渡るんだよね。このシミュレーターで  
 は、自転車から降りて、足踏みすると押し  
 歩きを再現できます。」

シミュレーターを  
 活用した交通安全教育  
 を実施したのは埼玉県  
 にある川島町立丸小  
 学校。10月7日、5  
 6年生の29名を対象  
 に、交通教育センター  
 レインボー埼玉の野口  
 富士雄インストラクタ  
 ーの指導による、交通  
 安全の授業が行われ  
 た。  
 授業はまず、標識  
 タイズから始まった。  
 「一時停止」「自転車通  
 行止め」などの標識を  
 指して、その意味を問  
 いかけて、児童が答える。  
 次に、シミュレー  
 ターの周りに集合した

**Honda自転車シミュレーターの特徴**



- ①自転車の操作系をフル装備  
 ハンドル、ブレーキをはじめ、実際にペダルを漕ぐことで走行。
- ②場所をとらないコンパクト設計  
 奥行1760mm×高さ1270mm×幅892mm、重量62kg。  
 サドルとハンドルの高さ調整機構により、子どもから大人ま  
 で乗車可能。
- ③臨場感あふれる映像と音響  
 リアルな映像と音響を再現。左右、後方の安全確認も画面に  
 表示。
- ④自転車運転練習をサポート  
 基本となるブレーキ操作練習をサポートする専用練習コース  
 を用意。
- ⑤法規やマナーを学ぶコース  
 混合交通の走行における法規やマナーを学ぶコースを用意。  
 随所にアナウンスによる指導、アドバイスが入りルールの理  
 解を容易にする。
- ⑥危険予測を学ぶコース  
 自らの判断で走行する危険体験コースを用意。  
 危険な状況に陥るプロセスをさまざまな角度から再生。  
 走行を振り返ることで、危険予測訓練ができる。



野口さんは自転車を運転する時に、  
 ヘルメットを着用することの重要  
 性についても授業の中で触れた

責任を取らなければいけなくなりま  
 す。うならないために、歩道ではスピードを  
 控えて、すぐに止まれるようにしてくださ  
 い。  
 最後に、「みなさんは友達が体験してい  
 る時に、危ないと感じたことをアドバイ  
 してくれました。普段、友達と自転車出  
 かけている時にも、これをやってみてくだ  
 さい。シミュレーターはいろいろな場面を  
 体験できます。たくさん練習して、こうい  
 う運転は危ないということ、下級生にも  
 教えてあげましょう」と野口さんが締め  
 くくって、授業は終了した。  
 丸小学校では今年12月までシミュレー  
 ターを校内に設置し、低学年の児童に対  
 しても先生がシミュレーターを使い、授業  
 で自転車の安全な乗り方を指導する予定だ。  
 また、休み時間などに児童から申し出があ  
 れば、自由に利用できるようにすることも  
 考えている。丸小学校の久保田秀至校長  
 は「クルマやバイクだけでなく、いち早く  
 自転車に注目し、シミュレーターを開発し  
 ていることは意義のあることだと思いま  
 す」と評価する。「児童が普段、自転車を  
 運転する時の安全意識を高めるために、シ  
 ャミュレーターは効果的です。また、当校の

**教習所による小学生への  
交通安全授業**

浜名湖自動車学校(静岡県浜名郡新居町)  
 は毎年秋に交通安全イベントを行って  
 いる。今年「ワンダーランド2008」と  
 題したイベントを9月27日に開催。そこ  
 にホンダから貸し出されたシミュレーターを  
 設置し、来場する子どもたちをはじめ地  
 域の人々に体験試乗してもらった。同校の  
 高柳久夫校長はシミュレーターを返却す  
 るまでの間、イベントだけでなく近隣の小  
 学校や中学校に、子どもたちへのシミュ  
 レーターによる自転車教育を案内。申し込  
 みのあった湖西市立岡崎小学校、湖西市立鷺津  
 中学校で交通安全授業が実施された。



シミュレーターは見通しの悪い交差点での左右の安  
 全確認が練習できるように工夫されている



# シリーズ:命を守る教育現場 第⑥回「シミュレーターを活用した自転車教育」

## さまざまな自転車教育の現場で活躍する ホンダ自転車シミュレーター

10月2日に行われた岡崎小学校の授業では1時限(45分)ごとに1クラスがシミュレーターを体験。合計で5クラス約160名の児童がシミュレーターを体験した。授業の冒頭で高柳校長が「今日はシミュレーターに乗って、いろいろな体験をしてほしいと思います。失敗しても大丈夫ですから、どんどん失敗して構いません。その失敗を実際の道路を走っている時にしないように、この体験を役立ててください」と挨拶。授業では2名の教習指導員がサポートし、体験している児童にアドバイスをを行った。

岡崎小学校では3年生から公道での自転車利用を許可している。このため、3年生になると本格的に自転車に乗り始め、行動範囲を広げる児童が多くなる。毎年、4、5月に地元の警察署の協力を得て行っている交通安全教室においても、3年生は自転車に関することを学ぶ。同校の学年主任である山本正人教諭は「半年も経過すると、学ん



静岡県湖西市立岡崎小学校での浜名湖自動車学校によるシミュレーターを活用した交通安全授業

だことを忘れてしまう児童も少なくありません。今回は、春に学んだことを思い出してもらいたい機会だと思いました。そのため、3年生全員がシミュレーターを体験できるようにお願いしました」と今回のねらいを話す。山本教諭もシミュレーターを体験。「ハンドルやペダルの操作感が本物の自転車にたいへん近いと感じました。CGによる映像も実際の自転車を運転している状況を再現できています。児童に自転車の交通ルールや安全な乗り方を、体験を通じて再確認してもらえらると思います」と語る。「シミュレーターの利点は、危険な状況を安全に体験できること。事故を起こしても、痛い思いをすることはありません。失敗を経験することで、危険予測能力が育成できます。また、シミュレーターは気軽に楽しみながら学べるので、子どもへの教育に最適です。教習所は今、地域の交通安全センターの役割も求められており、子どもや高齢者への交通安全教育も担っていかねばなりません。自転車教育も使命の一つなのですが、効果的な指導のノウハウはまだ未整備です。このような教育機器が出てくると、私たち教習指導員も自転車教育を実践しやすくなります」と、浜名湖自動車学校の高柳校長はシミュレーターの教育機器としての価値をとらえる。

ホンダカーズ東京中央・志村店(東京都板橋区)では、6月からショールームにシミュレーターを設置して、来店したお客様が自由に体験できるようにしている。志村店店長の石垣弘さんは、「お客様がお子様と来店した際に、スタッフからシミュレーターをご案内するようにしています。気軽に乗ることができると、小学生のお子様ですと、だいたい体験していただけます。商談中の時間をうまく利用して、お子様に簡単な交通安全教育ができます」という。子どもがシミュレーターを体験している時は、セーフティコーディネーターがついて、アドバイスをフォローしているそうだ。

高年齢者を対象にした  
出前講習に活用

シミュレーターは自治体でも活用されている。三重県桑名市では昨年7月より、シミュレーターを活用した交通安全教室を5回開催。このうち2回は小学生を対象にした教室で、3回は地域の老人クラブを対象に行われ、112名の高齢者が参加した。指導を担当した桑名市危機管理部危機管理課主任の奥村隆雄さんは、日頃、気軽に乗っている自転車の危険な側面を知ってほしいことと、危険を発見しても回避するのに時間がかかることを、高齢者の方々に伝えることが目的だという。

このように、シミュレーターは安全運転の基本や、交通ルール・マナーをわかりやすく伝え、学んでもらうことができる教育機器だということが、指導者や体験した方々に実感されている。ホンダでは、さまざまな教育現場での検証を重ね、シミュレーターによる効果的な教育方法の研究を進めている。

### 知識を行動に 発展させるために シミュレーターを活用

小川和久 東北工業大学教授



小学校5・6年生を対象に交通安全教育プログラムの1つとして危険箇所マップづくりを進めてきました。その教育効果を検証してみたところ、危険箇所マップでは児童の知識は増えましたが、行動を変えるまでにはいたらなかったことがわかりました。行動を変えるための手法を検討していた時に、Honda自転車シミュレーターを知ったのです。これを使えば、危険予測と具体的な確認行動を模範学習することができると考えました。

「いくつかの行動要素が階層的に組み合わさり安全行動が実行される」という「階層的アプローチ」の考えがあります。

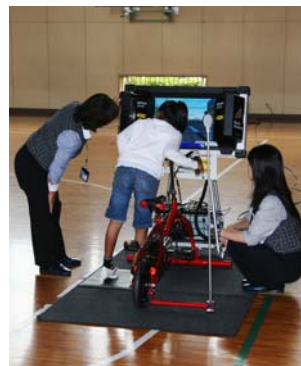
第1層の行動要素は「交通行動の基本」。道路の歩き方や自転車の乗り方などの教育が位置づけられます。第II層は「交通状況への適応」。危険予測などがここに含まれます。第III層は「移動のプランニング」。安全に移動するためのルートを選択できる能力の育成をめざします。最上位の第IV層は「生きるためのスキル」。動機や感情をコントロールすることが学習目標です。

この「階層アプローチ」に基づいた45分間のプログラム「自転車の安全な乗り方」を開発。これを昨年12月、大阪市内の小学校で6年生を対象に授業を実施しました。

授業ではまず、スタッフが左右の確認をしないなど不完全な運転を児童に見せます。それを見て児童に討論してもらい、安全な乗り方について意見発表します。それに基づいて、スタッフが模範となる運転を再現。最後に、児童の代表者もそれを実践します。

このプログラムは第1層から第II層に位置づけていますが、公道での自転車の路上訓練が難しい現状を考えると、シミュレーターは運動場など安全が確保された場所で実施するオフロード訓練から道路上で実施するオンロード訓練への橋渡しの役割が期待できます。シミュレーターを活用し、年齢に応じた教育プログラムを開発することにより、自転車教育の機会は拡大していくと思います。

### シミュレーターの活用で 地域の交通安全教育に貢献



横断歩道や踏切を渡る時には、自転車を降りて押し歩きをするように伝える教習指導員

育機器なので、ショールームに置いておくだけでなく、地域の小学校などに運んで、そこで当社のセーフティコーディネーターがシミュレーターを使って自転車の安全運転について教えることを考えています」と、地域に開かれた店づくりの一環としてシミュレーターの活用を計画している。志村店の近隣にある2つの小学校で、シミュレーターによる交通安全授業を実施する予定だという。また、授業では時間に限りがあっても、実際にシミュレーターを体験できる児童が少ないと考え、「授業の時に体験できなかった児童には、お店に来て自由に体験できるようにしたいと思っています」と話す。

「将来的にシミュレーターが市販され、ある程度の台数が確保できれば、当社の約70店舗の近隣の小学校と協力して、自転車教育を行う仕組みをつくっていきたいと思います」と、四輪販売会社を核とした地域への交通安全の普及を、さらに推進していく考えだ。

「シミュレーターは、発進する時に右後方のランプの色を確認しないと、警告が発せられません。体験された方は止まらず走り出す時



高齢者に自転車の安全な乗り方を指導する桑名市危機管理部危機管理課主任の奥村隆雄さん



Honda Cars 東京中央・志村店ではショールームにシミュレーターを設置。商談の合間を利用して、セーフティコーディネーターがお客様のお子様に交通安全指導を行っている。シミュレーターを体験している方が見ている映像を周囲にいる他のお客様も見ることができるようモニターを増設している

※1 セーフティコーディネーター=お客様に、店頭などで安全アドバイスができるHondaの社内資格を持ったスタッフ